



2024 年度 杏林大学

【 講 評 】

設問構成、試験時間は昨年度と同じ。2020 年度に易化し、それ以来かなり高得点での争いとなっていると考えられたが、今年度はやや難化した。試験時間は問題量に対して決して多くはないので、慌てず基本問題の取りこぼしのないようにしたい。

I は例年基本レベルの文法問題だが、今年度はやや難レベルの問題も含まれる。(イ) 形容詞の *sound*、(エ) *many a*+単数形、(オ) *each and every*、(ケ) の譲歩の表現は、文法事項をしっかりと仕上げていないと難しい。

II は整序英作文。基本レベルなのでここは全問正解を目指したい。ただし、D はやや難。*The only chance...(s) is(v) when you sleep(c)* という文型を見抜けるかがポイント。

III は文整序問題。内容の展開、ディスコースマーカ、指示語・代名詞に注目すれば短時間で解ける問題。III に関しては、昨年度と比べるとやや易化した。

IV は英文読解問題。2 つとも 300~400 語の長文で、昨今の大学入試問題としては異例の短さといってよいだろう。英文 1 は内容がやや抽象的で読みにくい、細部までの理解を求める設問設定にはなっていないため正答を選ぶこと自体にそれほど苦労はないはずだ。英文 2 は「言葉が喉まで出かかっている状態というのは幻想である」という趣旨の、興味深く読みやすい内容の英文だった。内容真偽問題では、本文中の数値や人物名の混同を狙った不一致文があるので注意したい。

【 解 答 ・ 解 説 】

I

解答

(ア) ② (イ) ① (ウ) ④ (エ) ① (オ) ③ (カ) ② (キ) ① (ク) ④ (ケ) ② (コ) ④

解説

(ア) 「午前中に出発するのなら、交通渋滞を考慮に入れるべきです」

・ *allow for A* 「A を考慮に入れる」

(イ) 「彼の分析が、論理的に非常に筋が通っていることに私はとても感銘を受けている」

・ 形容詞 *sound* 「根拠のある、もったもな」

(ウ) 「彼らが私のアパートから帰るやいなや、彼らくれたコンピューターを叩き壊した」

・ *Hardly had S done...before SV* 「…するやいなや～」

(エ) 「将来のために私たちにできる良いことがたくさんある」

・ *<many a+単数名詞>* 「多くの…」単数扱いとなる。

(オ) 「彼はこの大企業で働く一人一人を知っている」

・ *each and every* 「どの…も、あらゆる…」

(カ) 「彼女は駅まで走った。そうでなければ電車に乗り遅れていただろう」

・ *otherwise* 「そうでなければ」

(キ)「私は彼にそんなことを言う気になれない」

・ be afraid to do 「…するのがいやだ」

(ク)「あなたの友人があなたの名前を思い出せないなんて奇妙だ」

・ It is strange that SV 「…するとは奇妙だ」

(ケ)「それが真実であろうとそうでなかろうと、私は全力を尽くすつもりだ」

・ Be S A or not 「S が A であろうとなかろうと」 = whether S is A or not

(コ)「人にとって何が快適であるかは、かなりの程度、その人の属する文化的環境次第である」

・ to ...extent 「…な程度で」

II

解答

A ⑤.② (③⑤①②④) B ①.③ (②①④③⑤) C ④.② (①④⑤②③) D ②.④ (⑤②①④③)

E ①.⑤ (②①③⑤④)

解説

A. *The actor [makes anyone who] he [speaks to] happy.*

「その俳優は話しかける人は誰でも楽しい気分させる」

・ make O C 「O を C にする」 anyone who he speaks to が O にあたる。

B. *People tend to think that for every major problem there are always some experts [working around the clock to] solve it.*

「主要な問題であればどんなものでも、それを解決するために昼夜分かたず働く専門家が必ずいると、人は考えがちである」

・ work around the clock 「昼夜分かたずに働く」

C. *I waited [for her] for [at least thirty] minutes at the station.*

「私は駅で少なくとも 30 分彼女を待った」

・ at least 「少なくとも」

D. *The only chance the arms and legs [have to take it] easy [is] when you sleep.*

「手足がくつろげる唯一の機会は寝ているときだけである」

・ take it easy 「くつろぐ、気楽にする」

E. *Languages differ from one another — so [much so that] a speaker of [one] language sometimes cannot understand a speaker of [another].*

「言語は互いに異なる。非常にそうなので、ある言語の話者が別の言語の話者を理解できないことがある」

・ so much so that SV 「(前文の内容を受けて) 非常にそうなので」

III

解答

A ①.③ (④①⑤③②) B ②.⑤ (④②③⑤①) C ①.④ (⑤①②④③) D ③.① (④③②①⑤)

E ②.① (⑤②④①③)

解説

- A. 「多くの人がマルチタスクを得意にしている」という1文目を受けて、④「あるいは、どれほど非効率的か気づかずにそうだと思っている」とつなげる。they are の後ろには前文の good at...が省略されている。続けて、具体的な根拠として、①1930年代の研究について述べられている。⑤の since then が①の In the 1930s を受け、「その時以来、マルチタスクが非効率的であることを多くの研究が示している」とすれば自然な流れとなる。次に③の other studies に注目すると、これが⑤の a number of studies を受け「マルチタスクは精神的健康や認知能力に悪影響を及ぼすことが他の研究で報告された」となる。②では such drawbacks 「そのような欠点」に注目する。これが③の mental health and cognitive abilities を指すとわかればよい。
- B. 1文目の「歯医者へのドリルを嫌うのは世界共通のようだ」を受けて、その結果を表す④「多くの人は行かなければならなくなるまで、歯医者に行くのを先延ばしにする」という文が続く。次に②「当然、定期的に歯を診てもらった方がよい」とつなげる。③の That way 「そうすれば」に着目し、これが「定期的に歯を診てもらおうこと」だと判断すると、「そうすれば、治す必要のあることが深刻な状況になる前に対処できる」とつながることがわかる。それに続けて、⑤「幸い、歯科技術は近年急速に進歩している」、①「さらに、痛み止めも必要ならいつでも処方される」とつなげると自然な流れになる。
- C. 1文目の「SDGsは国連によって採用された世界規模の目標である」に⑤を後続させると、「社会、経済、環境の喫緊の問題に取り組むために」という目的を表す不定詞句となり、文意に合う。(オ)に①「SDGsは貧困根絶、質の高い教育、クリーンエネルギー、ジェンダーの平等のような様々な分野に関わる」を入れ、後続する文の These に着目して、②④と続けると、「これらの目標は、世界中の国と組織が共同で取り組むロードマップとして機能する」という自然な流れができる。最後の空所に③「私たち自身と未来の世代のためのより良い未来を作ることができる」を入れると、文頭の前置詞句「協力を促進し、行動を起こすことによって」と文意に合うつながりになる。
- D. 会話の流れは次の通り。 A:「チェスしたい?」→B:「④やり方がわかればやりたいんだけど」→A:「③習ったことないの?」→B:「②うん、いつ見ても私には難しすぎて」→A:「①やる気があるなら教えるよ」→B:「⑤時間がかかるかも」
- E. 会話の流れは次の通り。 A:「君は犬好き?猫好き?」→B:「私は犬が大好き。⑤以前、家でテリーと言う名のゴールデンレトリバーと暮らしていたよ」→A:「②大型犬を散歩させたり風呂に入れたりするのがどれほどたいへんか知っているよ」→B:「④そうだね、でも彼は優しい性格で、私にとっては家族だったよ」→A:「①だから、君は『犬を飼っている』ではなく『犬と暮らしている』って言ったんだね」→B:「③人の言葉の裏にはいつも感情が隠れているんだね」

IV

(英文1)

解答

(ア) ④ (イ) ② (ウ) ① (エ) ③ (オ) ④

解説

(ア) 第3段落1文目の「社会で潜在的に生産的な集団の多く、特に女性と若者が十分に活用されていない」から、④「積極的に貢献することを求められていない人の数」が正解となる。

(イ) tried and true は「実証済の、絶対確実な」の意味。したがって、② well-established 「確立した」が正解となる。後続する内容「私たちはたいへんそれ(tried and true approach)に慣れてしまっているので、慣習を打ち破り未知の世界に飛び込んだりせずに…」からも意味の推測は可能である。

(ウ) vicious は「悪い」の意味。したがって、① bad 「悪い」が正解となる。vicious cycle は「悪循環」の意味。

(エ) 挿入する文は「伝えられるところではアルベルト・アインシュタインがかつて述べたことだが、『愚行の定義は、同じことを何度も繰り返し違う結果を期待することである』。(3) から始まる段落では、「どんなアプローチを取るか知っていること以上に大きな問題は、サバイバル・トラップに嵌ること」という内容が述べられている。続く段落では、サバイバル・トラップとは同じ戦略を取り続けてしまう悪循環のことであるという説明がされている。したがって、(3) に与えられた文を挿入すると文意に合った自然な流れになる。

(オ) 第1段落2文目の「既存の企業は教育されたスタッフや適したインフラのような基盤へのアクセスに苦労する」という記述から、④「新興市場でビジネスをする際に、適したインフラにアクセスするのは容易ではない」が正解となる。

(英文2)

解答

(カ) ③ (キ) ② (ク) ① (ケ) ④ (コ) ③

解説

(カ) 第1段落で「言葉が喉まで出かかっている状態は、部分的に情報を思い出していると考えられていたが、新しい調査によってそれが誤りであると示された」と述べられているので、③「言葉が喉まで出かかっている状態の妥当性を証明する科学的根拠はほとんどない」が正解となる。

(キ) ここでの volunteer は他動詞で「自発的に提供する」の意味。したがって、② present 「提供する」が正解となる。下線部に続く第3段落で「しかし、その情報は間違えがちであった」と述べられている文脈からもその意味を推測できる。

(ク) trigger は「きっかけとなる、(感情)を誘発する」の意味。したがって、① set off 「誘発する」が正解となる。

(ケ) 第4段落1文目で「以前の研究によって、言葉が喉まで出かかっている状態は完全には幻想ではないと示されてきた。(言葉が喉まで出かかっている状態の)人は選択問題での正解率が高く、その比は55%対42%であった」と述べられている。したがって、④「言葉が喉まで出かかっている状態の人が、選択問題に答えた場合、回答の半数以上が正解であることが以前にわかっている」が正解となる。

(コ) 挿入する文は「しかし、自分(=言葉が喉まで出かかっている状態の人)の推測は全体の58%正しいと思うと答えたが、言葉が喉まで出かかっている状態ではない場合はその数字は7%であった」という意味。空所(3)の前文は「(言葉が喉まで出かかっている状態での)最初の文字の推測が正しい割合は、およそ11%対8%でほんのわずかに上回っているだけだった」という意味なので、逆接の Yet に着目し、(3)に与えられた文を入れると文意に合う流れになる。

お問い合わせは ☎ 0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>